

## 旧東ドイツVogtlandの楽器工業の変遷

著者	佐々木 博
雑誌名	筑波大学人文地理学研究
号	19
ページ	21-46
発行年	1995-03-25
その他のタイトル	Changes of Musical Instruments Industry in Vogtland, Sachsen
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00124583">http://hdl.handle.net/2241/00124583</a>

# 旧東ドイツ Vogtland の楽器工業の変遷

佐々木 博

## I はじめ

### II Vogtland 楽器工業のあゆみ

1. Vogtland
2. 楽器工業の起源
3. 楽器工業の発展
4. 社会主義時代の楽器工業
5. 東西ドイツ統合の影響

## III 楽器工業の現況

1. 楽器工業の中心地 Markneukirchen
2. 楽器工業の構造
3. 楽器工業の現況
4. 楽器工業の新しい動き
5. 楽器工業関連施設
6. 楽器工業の改善策

## IV おわり

## I はじめ

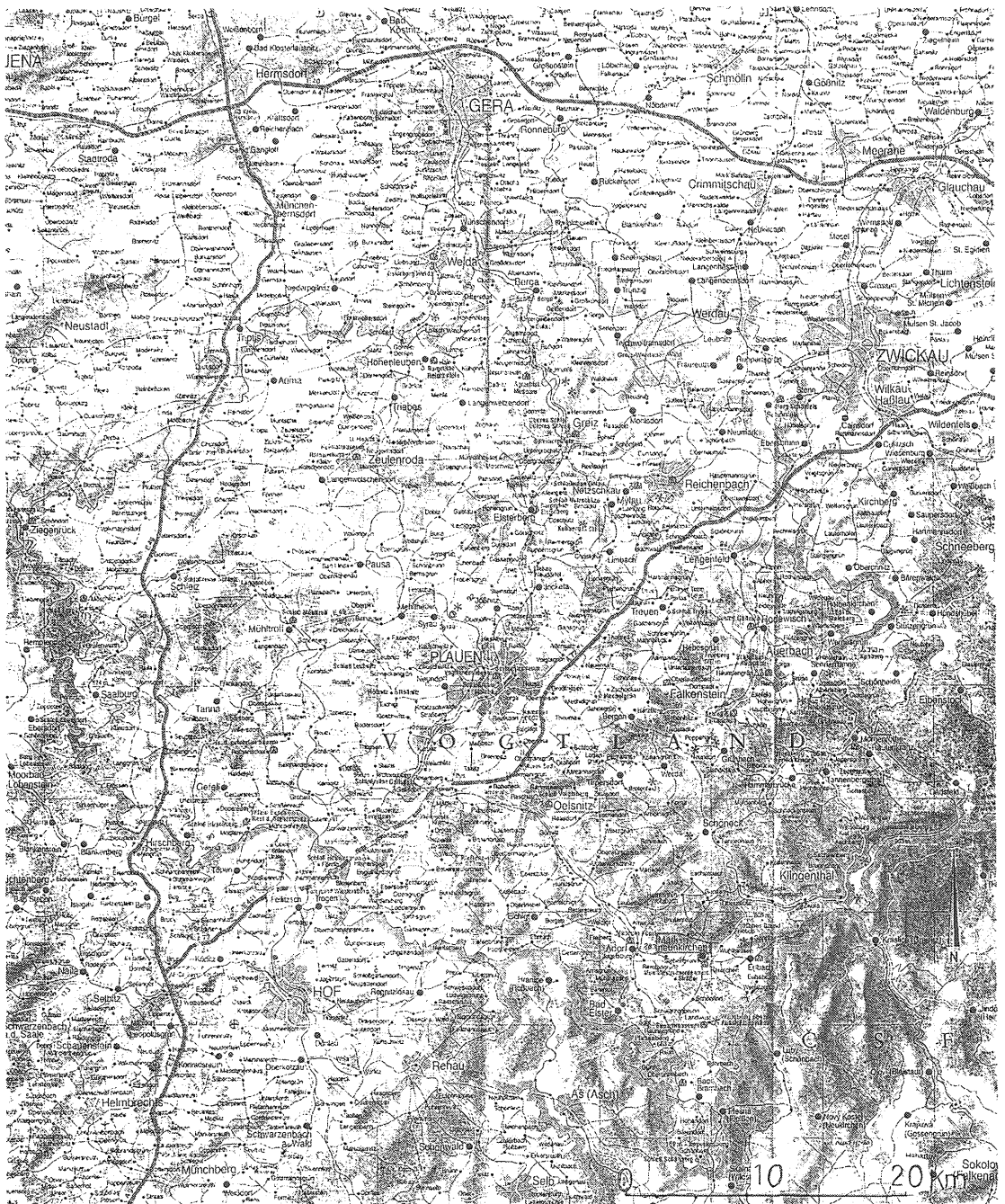
旧東西ドイツの国境, およびチェコとの国境にも接しているザクセン州フォークトラント (Vogtland) の楽器工業の発生・発展・衰退・現状を明らかにすることが, 本文の目的である。ドイツには中世以来, 手工業に裏付けられた伝統工業の歴史があり, それを明らかにすることは, ドイツの風土・産業・文化・地理を知ることそのものに通ずる。マイセンの陶器, ゾンネベルクの玩具, シュヴァルツヴルトの時計, ザクセンの繊維工業などが, 伝統工業の代表的なもので, 石炭に依存したルール地域の製鉄・金属工業などの近代工業とはある意味では対極にあるもので, ドイツのドイツ的なものが最もよく析出している。

1993年7月22日初めて郡都 Klingenthal と楽器工業の中心地 Markneukirchen を訪れ, 1994年7月19~25日現地調査を行った。Markneukirchen の町長 Karl-Heinrich HOYER はじめ, 郡役所, 楽器博物館館長 Ernst GEWINNER ら多くの人々のお世話になった。それらの人々への感謝を込めて本報文を作成した。

## II Vogtland 楽器工業のあゆみ

### 1. Vogtland

フォークトラント [Vogtland] とは, テューリンゲン層崖地形 (ケスタ) 山地, フランケンヴァルト・エルツ山脈に囲まれた標高500~600m のドイツ中位山地の準平原状の丘陵地であり, 狭義には東テューリンゲンケスタ高原にまで及ぶザクセン州部分を意味している (Fig.1)。フォークト (Vogt) とは代官・管領・城代・奉行・管理人などを意味し, 神聖ローマ帝国ホーエンシュタウフェン朝(12・13C)には, 南は Eger (今日チェコの Cheb) 地域から北は PleiB 地域 (ツヴィカウとライプチヒの間の Altenberg 付近のプライス川流域) に亘る, 王朝官僚の支配していた地域であった。代官には



第1図 Vogtland

Weida (ゲーラ南の町), 次いでゲーラ・Plauen (プラウエン) の代官が任命された。代官らに与えられていた収益権 (とくに、関税徴収権) は、ほぼ1200年以降、領域支配権を確立し、その領域は西は Lobenstein・Burgk から、北は Werdau・ゲーラ・Weida, 南は Adorf・Markneukirchen, 東は Falkenstein・Auerbach・Wiesenburg (ツヴィカウ南東) に及んでいた。ある時期は、ネーフ周辺地域や Asch (チェコの As)・Selb もその領域に帰属していた。14C 半ば、政治的領域の崩壊によって、1569 年後はその大部分はザクセン選帝侯領に入った。

ドイツ人が定住する前のフォークトランドは大部分森林で覆われていた。わずかに若干の部分がスラヴ系のゾルベン人によって居住されており、そこはプラウエン・エルスニッツ周辺の Gau Dobna, Schleitz 周辺の Gau Wisenta, Greiz・Mylau・Elsterberg 周辺の地域などであった。代官支配以前にも、12C にドイツ人の入植がみられたが、テューリンゲン東部・Oberpfalz・Main-Franken などからの農民であった。中世開墾地域には、とくに東部と南部の相対的に標高の高いところには、林地持分村 (Waldhufendorf) が特徴的であり、他方中世以前の古い居住地域には、広場村 (Platzdorf)・路村 (Straßendorf)・列状広場村 (Straßenagerdorf) が多く、孤立したところには袋小路村 (Gassendorf) もみられ、グーツ集落 (Gutssiedlung) も分散分布している。

高度が500～600m で、割合交通の障害になるものも少なかったことから、Vogtland は中心都市プラウエンを中心として、各方面への通過地域でもあった。中世以来、各方向へ交易路が開けていた。近代になって、1846年に東はライプチヒから Reichenbach へ、西はバンベルクからプラウエンへ1848年に鉄道が開通した。両方の鉄道を結ぶのが難題で、2本の大きな鉄道橋によって、1851年に両者は結ばれた。ザーレ川の支流 Weiße Elster 川のさらに支流 Göltzsch 川に架かる Göltzschthalbrücke は、Reichenbach 西4km, Netzschkau に北隣するところにあり、長さ574m, 高さ78m, 3段の81の煉瓦造りアーチで支えられ、2,600万個の煉瓦で出来ている。旧ドイツ連邦鉄道の傑作で、列車内や Vogtland の観光パンフレットには必ず登場する鉄道橋である。1851年7月15日、ザクセン皇太子アルバート列席の下に開通式が執り行われた。もう1本の Weiße Elster 川に架かる鉄道橋は、プラウエン北北東7km, Jocketa にあり、2段の煉瓦のアーチで支えられ、ザクセンとバイエルンを結んでいる。今日では、アウトバーン A72 のエルスター川橋も改修されて、ホーフからケムニッツ・ドレスデン・ライプチヒを結んでいる。

交通至便なフォークトランドには商工業が発達した。17C には自家消費量を超える繊維工業が発達し、遠隔地へ輸送されていた。プラウエン・Falkenstein・Auerbach・Elsterberg・Oelsnitz・Treuen などの綿織物業、Reichenbach・Lengenfeld の機屋業などがそうであった。今日でも繊維工業は主要な工業部門であり、綿や毛の紡績・織布、下着・カーテン・レース (プラウエンのレースは世界的に有名)、ジュタン・布加工品などが生産され、化成繊維や既製服も生産されている。第二次世界大戦後は金属工業が発展し、工作機械・印刷機械がプラウエンで、変圧機が Reichenbach などで作られている。

## 2. 楽器工業の起源

Vogtland の楽器工業の中心は Markneukirchen [マルクノイキルヒェン] 町で、工業のルーツはボ

ヘミアでの再カトリック教化 [Rekatholisierung] にともなって、プロテスタントのザクセンへ楽器職人を含むボヘミア人が1650年頃移住して伝えた、といわれている。マルクノイキルヒェンおよびフォークトランツの楽器工業についての文献の中で、Kurt Kauert の1969年、ポツダム教育大学歴史学 = 哲学学部へ提出された学位論文『19世紀中葉以降の変化をとくに考慮した、フォークトランツ音楽楽器工業の成立・立地・構造』が、最も権威のあるものである。原本のコピーが郡都 Klingenthal の町立図書館にあり、特別の好意で持ち出させてもらい、主要部をコピーした。以下はそれを中心に、若干の他の文献の記述を混じえてまとめた。

西ボヘミアのバイオリンは北イタリアで16C末に成立した中世的な、Fidel (バイオリンの原型で、小さな弦楽器。ルネッサンス・バロック期にも用いられた)・Viola da braccio・Lira (リュート) などがその原型であった。最初の弦楽器の製作者は、Gasparo da Saló (本来は Bertolotti, 1542~1609) で、ブレッシャのバイオリン学校の創設者であった。Andrea Amati (1535~1611) はクレモナの学校を創設し、その後 Nicola の下で、ロンバルディアのバイオリン製作はその頂点に達した。

北イタリアでの15・16Cのリュート製作所には、かなりのドイツ人、特にFüßenからも参画し、バイオリンの原初形態のリュート、ピオラ、ピオラダカンパなどを作っていた。バイオリン製作が急に発展するのは、音楽史上の社会経済的理由からであった。一つはバロック期の宮廷の豪華な催しであり、二つは経済的に力をつけてきた市民の表現力の向上であった。また、17Cにはイタリアで新しい音楽形式であるオペラが成立し、同時にオーケストラと室内音楽の発達があり、楽器の技術的完成度の向上が望まれるようになった。弦楽器はオーケストラの中では、主役を演ずるため、吹奏楽器以上にとくに技術的な成熟が望まれた。

郡都 Klingenthal (クリンゲントール) に南東方向で隣接する Graslitz (現チェコ Kraslice) には、1631年に1人のバイオリン製作者がいたことは文献で分っている。彼が他所からその技術を導入したのか、自らの発明なのかは明らかではない。独自の発明という説と、ザクセンのフライベルクから導入されたものである、との説もあるが、17C中葉以前のバイオリン製作地は、畢竟ハブスブルク家支配地域であり、インスブルック近くの Arzl で、すでに1460年にリュートが、1570年以前に弦楽器が製作されていたことなどから、Kraslice のバイオリン製作は、宗教難民との結び付きに起源があると考えるのが定説化している。1654年に1人のバイオリン製作者が Kraslice にいたことは確かであり、15年後には少なくとも8人となり、1669年にはギルドを結成している。

1648~1677年の間には12人のボヘミア人バイオリン製作者がザクセン選帝侯領へ移住し、移住先はクリンゲントール・マルクノイキルヒェン・Schöneck であった。彼らは1677年にマルクノイキルヒェンでギルドを結成した。ボヘミアでの再カトリシズムが強化されるにつれて難民が増大し、1669年にバイオリン製作者ギルドが Kraslice からザクセンへ移転してきた。マルクノイキルヒェンのギルド構成員の多くは、恐らくはボヘミア内部から来たと推察されている。

フォークトランツ最初のバイオリン製作者は難民の Georg Schönfelder で、クリンゲントールの1647年の封土台帳 (Lehensbuch) には Bäcker と記されている。マルクノイキルヒェンには半年後、最初の難民バイオリン製作者がいたことが記されている。Schöneck では、1672年に最初のバイオリ

ン製作が記されている。18C前半にはバイオリン製作はSchönbach（現チェコのLuby，マルクノイキルヒェン南東に接し，8 km 離れている）でも行われるようになり，のちの生産地への第一歩が完了した。

これまでの記述を整理すると，バイオリン製作の成立は：

Kraslice [Graslitz] では遅くとも1631年（ギルド結成は1669年）

Klingenthal は1647年，遅くとも1669年（1716年）

Markneukirchen, 1652年（1677年）

Schöneck, 1672年

Luby (Schönbach), 1723年

Markneukirchen 西 4 km の Adorf には1625年にオルガン製作所が設けられていたが，その後の楽器工業の発達には何の影響も与えていない。Luby [Schöneck] のバイオリン製作は恐らくは Markneukirchen 側から導入されたものらしい。

### 3. 楽器工業の発展

1357年に都市権を与えられた Markneukirchen は交通条件に恵まれた位置から，バイオリン工業も発展した。15km 東の郡都 Klingenthal は，1716年にバイオリン製作者ギルドが結成され，18C中葉のマイスターの数が Markneukirchen よりもそれほど少なくはないのに，19C初頭までは楽器の町としての発展は緩慢であり，むしろ鉱山と林業の町の色彩が強かった。Schöneck はバイオリンの町としては余り発展せず，Markneukirchen へバイオリンを供給する従属的地位にあった。

製品は行商によって販売され，使用する部品や材料の多様化にともなう商人層が形成され，ギルド的生産体制が壊れていった。量産体制に入ると質が低下し，「フォークトラント製品」とは低品質と同義語であった。バイオリンの最重要部分のいわゆる「響鳴胴 (Korpus)」は Vogtland で製作されるのではなく，今日のチェコの Luby (Schönbach) とその周辺で作られるように立地移動していた。古い Vogtland のバイオリン製作家内工業は，現実には単に部品組立業でしかなかった。

Klingenthal は一時期強大な Markneukirchen への部品提供者であったが，割合独立的であった。

材料となる木は17Cと18C前半は西エルツゲビルゲ山脈に豊富にあった。18C後半になると，材料は不足気味となり，1750年頃には響鳴板はボヘミアの林やバイエリッシャーヴァルトから移入されるようになった。19C初頭以来，外国産木材がいくつかの部品には多く用いられるようになった。

バイオリン取引の増大，運搬業の発達，楽器工業の確固たる伝統などにより，他種類の楽器工業を発生させることになった。1720年 Markneukirchen の弓製作に30年遅れて，弦の製作が始まった。弦と弓の製作はバイオリン製作者と商人から望まれていたことで，弦楽器製作の完成のためには不可欠のものであった。19Cには弦と弓も独立した商品となり，地場需要を凌駕するほどまでになった。1777年 Markneukirchen の弦製作者はギルドを結成し，ザクセン侯国に保護法を求めた。弦生産の拡大によって地場の羊腸は不足し，19C前半には組織的に商人ルートで，デンマーク・イギリス・ロシアから羊腸の輸入が行われるようになった。19Cには Klingenthal 地域での弦生産は相当の量になっ

たが、弓の生産は畢竟 Markneukirchen 地域に限られていた。

18C 中葉には Markneukirchen で吹奏楽器の製作が行われ、バイオリン販売ルートに乗って販売されていった。その製作技術は18C 末から19C 前半にかけて完成されていった。18C 末には吹奏楽器は Adorf と Klingenthal 地域でも製作され始めた。

撥弦楽器はドイツでは、18C 末ヴァイマルの公爵夫人が、イタリア旅行からギターのような楽器をもち帰り、作らせたのが始まりと伝えられている。Markneukirchen の指物師〔家具職人〕の息子が、ヴィーンで職人としてギター製作を勉強したのが、Vogtland のギター製作の始まりであった。当初製作者は指物師であったが、新しい収入源となるため、バイオリン製作者も手がけるようになった。町のギルドは指物師がギターを作ることに反対したが、ギターの販売は商人に大きな利益をもたらしたためにそれを阻止することができず、ギターの製作はギルドの崩壊を喚起することにもなった。

ギターに遅れて50年、1850年頃、Schöneck の楽器製作者の息子がやはり Wien の職場で習ったチターの製作を始めた。これら新しい楽器はより高い収益を求めて計画的に導入されたものであった。

1830年頃、Klingenthal に最初のハーモニカが製作されたが、当地の商人が旅路で見つけて導入したものであった。約20年後、アコーディオンがKlingenthal に導入され、畢竟当地のみで生産され、わずかにチェコの Kraslice で生産されるに過ぎなかった。ハーモニカ製作はKlingenthal で事情を一変させ、楽器工業が経済において第一の産業となっていった。

楽器販売方法には二つあった。①は伝統的な行商形態によるもので、商人のルートは決まっており、ポーランド・東プロイセン・スウェーデン・デンマーク・オランダ・南西ドイツ・フランスなどへ出かけ、運搬手段は手押し車であった。②は19C 中葉まで完全に消滅してはいなかったが、18C 以来成立したより新しい形態で、資本主義的卸売りであった。商人が重要なメッセや市場で商品を売るもので、大抵は自分の荷車をもっており、大きな市場のある町には様々な代理店を置いたり、一部は外国に駐在所を置くところさえあった。

19C 初頭には Vogtland、とくに Markneukirchen には多数の間屋があった。間屋はますます輸出を志向し、19C 中葉にはアメリカが Vogtland の楽器の最大の輸出先であり、20C への変わり目以来、アメリカがこの地に代理領事を置いたことは、玩具の町 Sonneberg と似ている。1851年にはホーフープラウエンー Reichenbach 間に鉄道が開通し、ライプチヒや海港ハンブルク・ブレーメンと結ばれることになった。

1860年頃、フォクトラント＝西ボヘミア音楽楽器産業は完成し、その主要部分は弦楽器・撥弦楽器・弦・弓・木管吹奏楽器・金管吹奏楽器・打楽器・ハーモニカ・アコーディオン、さらに様々な部品工業などであった。楽器製作が行われている範囲は450km<sup>2</sup>、ザクセンとボヘミア合せて約100の集落にわたっていた。主要楽器生産都市としては Markneukirchen・Luby [Schönbach]・Klingenthal・Kraslice [Graslitz] が挙げられるが、Markneukirchen の地位は抜き出ている。

1862年ザクセンに職業自由権が導入され、ギルド的規制が撤廃され、新たな地域分化が進行した。Markneukirchen・Luby 地区では分業も社会経済構造も不変であった。Markneukirchen の間屋は生産と販売を支配し、続く数10年間、生産力のさらなる発展と生産関係の変化を阻止してきた。

Markneukirchen の生産の中心は弦楽器と撥弦楽器であり、周辺部は部品製作の域に止まっていた。バイオリンの主要部品である体〔響鳴〕胴（Korpus）はほとんどがLubyとその周辺で生産されていた。Vogtlandでは分業化がますます進んだため、体胴の生産はほとんどなくなってしまった。生産は家内工業的に行われていたが、チターと羊腸生産は19C末と20C初頭に工場的に行われ始めた。

戦間期には弦楽器と撥弦楽器は工業化ができずに危機を迎えていた。吹奏楽器も量・質の面でボヘミア（とくにKraslice）に遅れをとっていた。世界経済恐慌前には、吹奏楽器は全音楽楽器生産に占める割合はわずかのものではなかった。

Klingenthal地域では新しいハーモニカ生産に特化し、1870年頃には全楽器就業者の3/4以上がハーモニカ生産に従事していた。オーケストラ楽器の生産促進という政策にもかかわらず、それは成功しなかった。ハーモニカは主に集中的に、アコーディオンは分散的に作られていた。Trossingen（南西ドイツ、バーデン＝ヴュルテンベルク州、シュヴェービッシュアルプ山地西部の小邑）のハーモニカ工業と同じような、生産と資本の統合化には、Vogtlandのそれは至らなかったし、オーケストラ楽器工業も同様に、統合化は弱く、それゆえに第2次大戦までには、技術的發展は停滞していた。

第三帝国時代には金管吹奏楽器の需要が増え、労働力はほとんど全てボヘミアから来ていた。Kraslice地域は19Cに急成長し、繊維工業と並んで二大中心産業であったが、ついには楽器工業が繊維工業を凌駕した。Vogtlandの吹奏楽器工業は、Krasliceへの部品供給に止まり、Krasliceは早く工業的生産体制をとり、販売面でもLubyの家内工業とは対照的に独立性を保っていた。

上部Vogtlandの楽器工業は第一次大戦前にピークに達し、労働者数では1870年の4～5倍となった。ハーモニカ製作の労働者数は世界恐慌直前には50%以上も占めるようになった。撥弦楽器製作者数は弦楽器製作者数を超えた。吹奏楽器製作者は絶対的にも、相対的にも減少した。家内工業的にやっている楽器工業は若者に嫌われ、後継者不足となり、労働力は老化し、とくにKlingenthal地域でそうであった。

生産量の増加にともなって地元の響鳴木は枯渇し、ボヘミア・バイエリッシャーヴァルト・ティロール・南東ヨーロッパなどから移入しなければならなくなった。弦・腸線（Katgut）用の羊腸は、19C後半以降ロシア・中央アジア周辺諸国から供給され、さらにはスペイン・中近東・北アフリカ・オーストラリア・南米などからも移入されるようになった。楽器工業はその用いる材料や部品が多岐にわたるため、供給の面でその時の政情に影響され易く、販売よりはむしろ原料確保の問題の方が深刻であった。

第一次大戦直前にはVogtlandが世界の楽器生産の中心に成長し、その販路には19Cおよび20Cの最初の20年は、アメリカ・ヨーロッパ・南アフリカ・インド・オーストラリアなどがあった。19C後半には販売方法が変り、メッセはそれほど意味をもたなくなり、代って直販方式が多くなってきた。いくつかの国には、多くの商人やメーカーは販売センターを設置していた。

第一次大戦後の楽器工業は大きく後退し、生産量・労働者数ともに減少した。小経営・零細経営でのみ生産が行われ、技術的進歩は停滞した。



#### 4. 社会主義時代の楽器工業

1945年、第二次大戦が終り、1949年東ドイツ〔ドイツ民主共和国=DDR〕が成立すると大きな変革が行われた。

- ① 問屋の排除と人民所有・半国营・組合経営の形成
- ② 生産の統合によって、技術向上を図る。
- ③ 楽器製作の科学的基盤の創設
- ④ 新規市場の計画的開拓と、統一的職業教育の確立と後継者の育成

その過程で、コメコン経済体制の下での国際的分業経済の中で、Vogtlandの楽器工業は大きく躍進した。1964年Vogtlandの楽器・楽器部品・楽器関連工業412企業のうち、5が人民所有、43が半国营、31が私営企業、8が職人生産組合、325が個人職人であった。378がKlingenthal郡、34がOelsnitz郡にあった。

楽器工業部門別では、アコーディオンが最も大きく(52.7%)、次いで弦・撥弦楽器工業が20.6%であった。後の2部門はアコーディオンに比して社会経済的には遅れたものであった。それ以外にハーモニカ(5.3%)・電子楽器(5.4%)・打楽器(0.8%)があるが、小さなものであった。

1969年当時、楽器製作地は20集落で、うち11はKlingenthal郡(Klingenthal・Zwota・Oberzwota・Markneukirchen・Breitenfeld・Gunzen・Wohlhausen・Erlbach・Wernitzgrün・Landswist・Schöneck)、9はOelsnitz郡(Adorf・Marieney・Leubetha・Hermsgrün・Bergen・Sohl・Rohrbach・Radiumbad Brambach・Hohendorf)であった。20集落のうち、Klingenthal・Markneukirchen・Zwotaが楽器製作地として大きなもので、全楽器製作労働力の90%がこの3集落到集中しており、Klingenthalは61.3%、Markneukirchenは22.3%、Zwotaは6.2%であった。

Markneukirchen地域では畢竟オーケストラ用楽器と音楽玩具(アクセサリーを含む)が非社会主義的個人経営で生産されていた。他方、Klingenthal地域は、楽器の全部門で社会主義的・半国营企業で行われていた。

Vogtland楽器製作412企業(1964年)の総労働者は7,831人(平均19人)であったが、これらの企業は楽器以外のものも作っているので、総楽器製作者は約18%減の6,416人である。この内訳は、

アコーディオン	2,739 (42.6%)	木管楽器	394 ( 6.1%)
ハーモニカ	712 (11.1%)	金管楽器	574 ( 8.9%)
電子音楽楽器	213 ( 3.3%)	打楽器	51 ( 0.8%)
弦・撥弦楽器	862 (13.4%)	音楽玩具	266 ( 4.2%)
弦	173 ( 2.7%)	その他の楽器	362 ( 5.6%)
弓	70 ( 1.1%)		

全楽器従業者の98%はKlingenthal郡に、2%はOelsnitz郡に住んでいた。Klingenthal郡では楽器製作に従事している者の割合は全就業者の30.4%、全人口の15.6%を占めていた。労働者の流入通勤は少なく、ほとんど地元在住者であった。ハーモニカ工業は家内工業的に広い範囲で行われていた。女

子の徒弟は男子よりも少なく、軽い労働が多かった。

販路は東・南東ヨーロッパ向けが多く、次いで古い市場である西ドイツ・イギリス・スカンジナビア諸国であった（表1）。輸出品の半分はアコーディオンとハーモニカで、輸出の半強は資本主義国向けであった。社会主義諸国の楽器工業は、チェコスロヴァキアを除くと、国内向けであり、ドイツ民主共和国（DDR）が最も多様な製品を生産していた。1950・1960年代の好景気により、Vogtlandは貧乏地域から最も生活水準の高い地域へ変貌した。

## 5. 東西ドイツ統合の影響

コメコン経済体制の崩壊によって市場が失われ、販路がなくなって労働市場が縮小した。旧コメコン諸国への販路を新たに旧西ドイツなどへ開拓しなければならなくなった。

1990年の聴き取り調査によると、労働市場が「狭くなった」と答えた経営者が52%、「変化なし」が48%、「むしろ広がった」が7%であった。調達と販路状況の変化に関しても、「市場がなくなった」が56%、「そんなことはない」が44%、「市場が開かれた」が48%、「そんなことはない」が52%であった。かつての人民所有企業（VEB）が有限会社（GmbH）に民営化されたが、多くは私営の手工業であったため、経営組織としては変化がなかった。

連邦経済省が構造的不況経済地域の調査にお金を出し、楽器工業の里（Musikwinkel）のKlingenthal郡については、ライプチヒにあるSCG（St. Gallen Consulting Group）なるシンクタンクが1990年に調査を行った。その報告書の中で、ケルン音楽大学の学生はMusikwinkelの位置について

第1表 ドイツ民主共和国の楽器および音楽玩具の輸出（1963～1967年）

国 名	輸 出 額 (TVM)	総輸出額に占める割合 (%)
ソ連	81,345	33.6
ブルガリア	21,097	8.7
西ドイツ・西ベルリン	18,874	7.8
ポーランド	18,283	7.6
ハンガリー	11,732	4.8
イギリス	9,906	4.1
ハンブルク経由の輸出	9,862	4.1
ユーゴスラヴィア	9,561	3.9
ルーマニア	6,946	2.9
スウェーデン	6,610	2.7
デンマーク	5,474	2.3
ノルウェー	5,169	2.1
オランダ	4,761	2.0
チェコスロヴァキア	4,384	1.8
フランス	3,840	1.6
その他の国	23,907	10.0
総輸出	241,751	100.0

Kauert (1969) による。資料はDenusa。

は知らず、調査を受けた経営者全員が、お客は Musikwinkel がどこにあるか、なぜそう呼ばれているかを、説明しなければならなかったと答えるほど、Vogtland の楽器工業は旧西ドイツ・EU 諸国には知られておらず、楽器の売り込みに苦勞している。世界市場での競争相手はチェコ(とくに金管楽器)・旧西ドイツ(金楽器)・極東(日本・韓国、金楽器)・アメリカ・スペイン・フランス・イタリア(撥弦楽器・弦楽器)である。

1. チェコ・極東からの楽器は Musikwinkel のものよりも安く供給され、
2. 販路は競争によって決まり、専門商社(ヤマハ)は Musikwinkel から競合する製品は購入しない。

手工業経営にとっても、例えば手工業経営者の共同組合である Migma にとっても、既存の販路に乗せることはむずかしい。さらに Musikwinkel が知名度が低いことが、よりむずかしくし、競合相手に劣ることになる。それゆえ、Musikwinkel にとっては、二つの目標が有効であると考えられる。

1. 音楽に関心を持つ観光客に、音楽的には素人ではあっても、数世紀にわたる伝統ある Musikwinkel に興味をもってもらう。
2. 職業音楽家・オーケストラ団員・アマチュア音楽家から吹奏楽団・伝統的楽団に至るまでの音楽専門家に知ってもらう。楽器の高品質が、これらの人々に導入される動機となるはずである。個別の音楽家が、個別に調製された楽器を求めるはずであり、事実、手工業者のところへは世界的な演奏家が楽器の注文や修理に来訪している。

弓製作以外の楽器製作企業は、ドイツ統合による市場経済への移行にともなって、マーケティング・販売・PR など全く経験のないことを強いられ、販路は突然全くなくなってしまった。現状を経営者たちは、時間の問題で、市場経営をマスターするまでの困難であると考えている。

大きな問題は Musikwinkel の地名度の低さはあるが、経営者たちはメッセに出品し、地図を携行して Musikwinkel の売り込みに努め、地域ぐるみのマーケティングを展開している。DDR 時代のダンピング価格とそれを取り扱ってきた DDR 商人の体質が今日ではマイナスに働いている、と土地の人たちは考えている。

### Ⅲ 楽器工業の現況

#### 1. 楽器工業の中心地 Markneukirchen

Markneukirchen はドイツ連邦共和国、ザクセン州・Klingenthal 郡(人口31,892, 1993)にある町で、人口7,612(1993.9.30現在)、面積2,200haである(表2)。町の中心部は東から西へ流れる Weiße Elster の支流 Schwarzbach の刻んだ谷間に発達し、標高は500m ほどで、市街地の北部・南部は600m ほどの丘陵となっている。1952/53年に、西隣の Siebenbrunn, 南隣する Strässal と Schönlinde を合併して、面積は2,200ha で、うち875ha が既成市街地となっている。

プラウエンよりチェコ北西部へ通ずる鉄道駅の Adorf から25km バスで東へ入ったところに中心部がある。国道 283 号が Adorf から Klingenthal を通り Reichenbach へ通じている。1274 年に Waldhufenflur(林地持分耕地の意)として文献に現れ、1357年に都市権が与えられた。町役場のある四角形の広場に、都市権の特権を思わせるものが感じられる。18C になって東西方向の谷筋に沿っ

第2表 Klingenthal 郡の町村の人口

町 村	人 口	
	31.12.1992	30.09.1993
<b>Kreis Klingenthal</b>	<b>31,981</b>	<b>31,892</b>
Erlbach	1,777	1,769
Gunzen	202	196
Hammerbrücke	1,491	1,491
Klingenthal / Sa., Stadt	11,797	11,636
Landwüst	339	339
Markneukirchen, Stadt	7,666	7,612
Mörgenröthe-Rautenkranz	1,016	1,005
Schilbach	207	208
Schöneck / Vogtl., Stadt	3,317	3,302
Tannenbergsthal / Vogtl.	2,042	2,240
Wernitzgrün	354	348
Zwota	1,773	1,746

(Klingenthal 郡役所)

て、西方 Adorf 方向、北東方 Schöneck 方向、東方 Wohlhausen 方向へ市街地の形成が行われた。小さな農業市民都市とその経済構造は三十年戦争（1618－48）後、ボヘミアからのバイオリン製作者や難民の流入によって大きく変化した。

Adorf からの分岐鉄道は東の郡都 Klingenthal までは Zwotental 経由であった。1875 年に Siebenbrunn 駅が開設され、Markneukirchen の楽器は荷車で Siebenbrunn 駅まで運ばれ、鉄道で出荷されるようになった。そのため町は 1800 年以來 Siebenbrunn からの分岐鉄道を要求してきたが、1909 年になって漸く Markneukirchen を通り、1911 年に Erlbach まで開通した。

20C への変り目以來、アメリカが当地に代理領事を置いたことは、輸出志向型の楽器工業の力を示すものであった。

チェコと旧東西ドイツ国境に近いことは、二重の意味で「音楽の里（Musikwinkel）」の中の「音楽の町（Musikstadt）」として特色ある町であった。統一後は Erlbach への分岐鉄道は撤去され、鉄道のない町となったが、医療・商業・サービス・文化の面でも中心地であり、外へ働きに出る通勤者は少ない。15km 東の郡都 Klingenthal（人口 11,636, 1993）に次いで郡内第 2 の町である。郡内の町村は 3 町 9 村からなり、3 町とは Klingenthal・Markneukirchen・Schöneck（人口 3,302）、最も小さな村は Gunzen（196）と Schilbach（208）である。

1990 年、約 7,100 人の人口のうち 92.0%、6,530 人が Markneukirchen に住み、4.9% 350 人が Siebenbrunn、2.3% 160 人が Schönwind, 60 人が Strassel に住んでいる。人口は減少気味で、1975～90 年の 15 年間に 15% 減少し、1992～93 年の 1 年間に 54 人減っている。これは自然減・社会減両方の理由と考えられる。

住民の 77% は 30 年以上も Markneukirchen に住んでおり、うち 50% は少なくとも 50 年は当地に住ん

でいる。しかも92%の人が少なくとも30年は同一の建物に住んでいて、社会的モビリティは低く安定している。住居の60%は私有である。住居は小さく60m<sup>2</sup>未満が47%、80m<sup>2</sup>以下が69%も占めており、部屋数では86%が4部屋以下である。暖房は96%が褐炭であった。

人口7,600となると、それなりの中心地機能をもった施設があり、学校・障害児学校・実業学校・「Reinhold Glier」音楽学校・幼稚園・医院・歯科医・郵便局・信用金庫・農協・銀行・税理士・映画館などのほか、スポーツ施設6、ホテル・旅館15などがある。

## 2. 楽器工業の構造

連邦統計年鑑(1993)によると、ザクセン州の人口は1991年6月30日現在で472万、Klingenthal郡は3.3万(男1.5万、女1.8万)、人口密度は140人/km<sup>2</sup>であった。郡の就業者数18,800人(人口の59%)のうち、工業就業者は10,970人(全就業者の58.4%)で、旧西ドイツの工業就業者率38.3%よりもはるかに高い工業就業率を示している。

18,800人の就業者の内訳は、

楽器工業	6,200人	33.0%	商業	1,220人	6.5%
金属・電子工業	1,370	7.3	農業	970	5.2
繊維工業	1,340	7.1			

で、楽器工業が非常に大きな郡の産業である事を示している。

近隣のプラウエンの労働署管区内の失業率をみると、1994年6月はKlingenthalサービス所は16.3%で、Reichenbachの17.2%に次いで高く、管区内の平均14.3%よりも2%高い。主力の楽器・繊維工業はともに旧東ドイツでは不況業種である。

Markneukirchen町には1990年208の工業・手工業経営があった。その内訳は、次のようである。

	(経営数)		(経営数)
楽器製作工業経営	4	サービス手工業(床屋など)	35
その他の工業経営	8	金属加工手工業	19
建設業経営	2	楽器手工業	61
食品手工業経営(パン屋など)	11	その他の手工業	43
建設関連手工業	25		(Maier 1991)

工業経営(Industriebetriebe)とは従業員20人以上を、それ未満を手工業経営(Handwerksbetriebe)と呼んでいる。

経営の創業年代をみると、31%は1900年以前、22%が第二次大戦前、合せて53%が第二次大戦前の創業である。第二次大戦からベルリンの壁が崩壊した1989年11月9日までの時期も41%と多く、それ以降は6%に過ぎない。それゆえ技術状態も老朽化しており、使用中の機械の45%は1945年以前のものである。設備を更新したいが、売れ行き難と資金不足がネックとなっている。Markneukirchenで

は下請〔子〕企業は少なく、81%が主経営（Hauptbetrieb）であり、下請があっても割合近く（20km まで）にある。主経営一下請経営関係は、Klingenthal 町に多い。経営の60%は従業員19人以下で、20～49人は11%に過ぎない。従業員1,000人以上のものは一つもない。

年生産額別では25万～50万 DM（約1,750万円～3,500万円）台が32%と最も多く、次いで25万 DM 未満が19%である。100万 DM（約7,000万円）以上の生産をあげる企業は約1/3（36%）である。逆に100万 DM 未満が6割占めていて、零細・小経営が主体である。労働者1人当りの生産額は工場工業よりも手工業の方が大きい。

2,682人の就労者のうち、61%が男、39%が女である。その質は高く66名が熟練労働者であるのに対して、未習労働者・研修中労働者は19%に過ぎず、12%が事務員、3%が経営者である。訓練が必要なのは、特に金属加工業と楽器製作である。全就業者数に占めるパートタイムの割合は19%にのぼる。

Zwota の楽器製作研究所（有限会社）Institut für Musikinstrumentenbau GmbH が1993年3月15日現在で行った調査「Musikhandwerk und-industrie im Vogtländischen Musikwinkel Markneukirchen / Klingenthal」によると、企業数・部門・従業者数は次の通りである（表3）。

楽器関連企業131の総就業者は952人、1企業平均7.3人であるが従業員1人の企業が60（45.8%）、2人の企業が28（21.4%）で、極零細企業が7割も占めている。部門別企業数では木管楽器（22社）、金管楽器（21社）、弓（18社）が多く、就業者数でも金管楽器（244人）、木管楽器（161人）、ハーモニカ（147人）が大きなものである。従業者を地区別にみると Markneukirchen が73.8%、Klingenthal

第3表 Vogtland の楽器工業部門別従業者数と企業数（1993年）

楽器工業部門	Markneukirchen <sup>1</sup>	Klingenthal <sup>2</sup>	従業者数	企業数
弓	25	—	25人	18
弦楽器	20	—	20	14
撥弦楽器	22	10	32	12
弦・撥弦楽器	92	—	92	1
木管楽器	154	7	161	22
金管楽器	244	—	244	21
弦	14	3	17	3
ハーモニカ	—	147	147	12
ケース〔サック〕・入れ物	20	18	38	7
部品	17	—	17	7
電子楽器	—	45	45	1
その他	95	19	114	13
計	703 (73.8%)	249 (26.2%)	952	131

<sup>1</sup>Markneukirchen には Adorf, Bad Brambach, Breitenfeld, Erlbach, Eubabrunn, Gopplasgrün, Hohendorf, Rohrbach, Schönbind, Schöneck, Siebenbrunn, Sträbel, Wernitzgrün, Wohlhausen の集落を含めてある。

<sup>2</sup>Klingenthal には Morgenröthe-Rautenkranz, Zwota の集落を含めてある。

(Institut für Musikinstrumentenbau GmbH)

が26.2%で、3 : 1の割合でMarkneukirchenが楽器工業の中心地であることを示している。しかもKlingenthalはアコーディオンを含むハーモニカに特色があるのに対して、Markneukirchenでは金管・木管・弦楽器のいわゆるオーケストラ楽器に特色がある。就業者数の大きなものを挙げると、

Vogtländische Musikinstrumentenfabrik GmbH	200人
(Markneukirchen, 金管楽器, サキソフォン)	
MUSIMA Musikinstrumenten-Manufaktur GmbH	132人
(Markneukirchen, 撥弦・弦楽器)	
Harmona Akkordeon GmbH	104人
(Klingenthal, アコーディオン)	
Holzblasinstrumentenbau GmbH	50人
(Markneukirchen, 木管楽器)	
Klingenthaler Musikelektronik GmbH	45人
(Klingenthal, オーケストラ用品・電子楽器)	
GEWA GmbH Musikinstrumente-Etui-und Taschenfabrik Mittenwald	32人
(Adorf, 弓・ケース・間屋)	
C.A.Seydel Söhne GmbH	30人
(Klingenthal, ハーモニカ)	
Schreiber & Söhne Nauheim Produktionsstätte Erlbach	27人
(Erlbach, 木管楽器)	

製品の原材料の供給者は原材料の加工の程度によって若干異なるが(表4), 地元Vogtlandで2～3割, ザクセン州を入れても3～4割, 他方旧西ドイツからは3～4割, 外国を含めて4～5割である。

製品の販路は地元Vogtlandへは35%, ザクセン州を含めて42%, 58%は自州以外へ出荷され, 旧西ドイツ(20%)と外国(20%)へは4割で輸出率が高い。

### 3. 楽器工業の現況

SCGが1990年に47企業への質問のうち, 34は手工業企業, 13は工業企業(うち3はドイツ信託公

第4表 Markneukirchenの楽器工業への原材料納入業者の所在地(1990年)

加工の程度	Vogtland	Sachsen	それ以外の旧東ドイツ	旧西ドイツ	外国
原 料	23%	12%	25%	30%	10%
材 料	32%	10%	32%	26%	—
半製品	26%	19%	10%	40%	5%
その他	19%	19%	12%	38%	12%

(Maier 1991より)

社管理下)であった。かかえる問題は様々である。

(弓)

受注は好調である。品質は上から極上に達しているため、フランス・旧西ドイツなどとの競争も問題とはならず、その上、弓は消耗品であるため、定期的に注文が得られる。

(木管楽器)

ブロックフリュート [リコーダ]・クラリネットは若干のマイスター楽器と同様に、受注が好調であるが、他方 Böhmflöte, ピッコロのような木管吹奏楽器は、大きな販売難に苦しんでいる。極東・フランス・アメリカからの競争が激しく、修理程度の注文しかない。とくに、かつての DDR のダンピング価格政策がもたらした木管楽器のイメージダウンの被害は大きい。

(金管楽器)

金管楽器製作は最悪で、Kraslice のチェコ金管楽器工業の攻撃的な価格 = 販売政策は、旧西ドイツでの販売を困難にしている。さらに極東からの新たな競争があり、適度な品質の生産性を安い価格で提供し、綿密な販売システムに対して、Musikwinkel の手工業者らには対抗手段が全くない。

(撥弦・弦楽器)

製品によって状況は異なっている。撥弦楽器の販売は満足できるものである。修理だけでは定期的な販売とはならず、固定客がいるわけでもない。適切なマーケティングなどは多くの手工業者にとっては、過剰期待である。その上極東からのみならず、フランス・イタリアからの強力な侵入競争がある。

弦楽器はやや好調であるが、やはり外国のブランド名をもった製品との競争は厳しい。

(その他の製品)

ピアノ製作者 1, 部品 4, オルゴール 1, チター 2, 工芸ろくろ 1, アコーデオン 1, 清算業 1, 桶業 1, ハーモニカ 1, 請負業 1 など様々で、いずれも販売難の問題をかかえている。楽器製作者への部品供給者は、引き合いが少なく、他の業者への供給もままならず、かつての東の市場とは縁が切れたままである。

Migma (Meisterwerkstätte des Vogtländischen Musikinstrumentenhandwerks) は、零細楽器製作手工業者の組合であり、楽器系材料の購入と製品の宣伝・販売を担っている。高度な技術をもつ手作りの楽器の価値を強調してはいるが、担当する人材と DDR 時代の独占的生産販売にともなう弊害から抜け切れてはいない。

Migma の宣伝パンフレットに見られる文字は：

Klingende Kostbarkeiten

aus der

Musikstadt Markneunkirchen

Klingende Qualität

— Neubau und Reparaturen —

— Streichinstrumente —



— Bogen für Streichinstrumente —

— Zupfinstrumente —

— Blasinstrumente —

— Zubehör —

— Bestandteile —

An-und Verkauf

Gespielter Streichinstrumente

伝統的な Vogtland の楽器工業の特色を物語っている。しかし、構成員の手工業者は皆が「重要な組織であり、存続すべきものである」と思っているが、満足はしていない。ほとんどの手工業者はミグマに次のような課題を期待している。

- ①手工業者にとって、より有利な原材料の購入
- ②メッセへの援助と推進
- ③輸出の促進と実行
- ④パンフレットとカタログの配布
- ⑤手工業者にとって話し易いパートナー
- ⑥一般的マーケティングの課題（宣伝・市場調査）

外国の顧客との会話、通関用紙の記入、原材料購入など、どれをとっても Migma は手工業者を満足させておらず、有能な人材を組合に雇う必要がある。

ドイツ信託公社（THA）管理下の企業 4 社は、皆異口同音に民営化をのぞんでおり、1992年に達成された。これらの企業は半機械化および完全機械化しており、製品は中から下の品質のものである。すべての製品は極東・イタリア・アメリカからの競争にさらされている。賃金の高いドイツでは、税の優遇措置と合理化によってのみ生き残れるのであり、MUSIMA は民営化された。

あらゆるレベルの楽器工業に共通に言えることは、DDR 時代のダンピング価格が、製品のイメージを落としてしまっている。それゆえむしろ、DDR が売ってこなかったところが今後の市場になりうる可能性もある。移行期を乗り切るためには、橋渡し資金の貸し出しを、楽器製作企業は望んでいる。

#### 4. 楽器工業の新しい動き

SCG の分析は非常に厳しく、他方バイロイト大学経済地理学 = 地域計画講座（J. Maier）の分析は企業の経営分析よりは、町全体の発展計画に重点が置かれている。工場拡張の余地がなく、電話の通信回線も十分ではなくインフラ整備が主要テーマであった。

市街北東端、Wohlhausen・Klingenthalに通ずる国道 B 283北側に、工業団地が造成され、既成市街地の中から工場移転ををねらったものである。約16haの土地の起工は1992年9月、約650人の労働力を雇用しようとしているが、現段階では500人強である。計画上の1区画は1,000m<sup>2</sup>以上であるが、起工式から2年経って区画の80%が売却済みであり、1994年春には金管楽器の大メーカーである

Vogtländische Musikinstrumentenfabrik が操業を開始した。最新状況では、土地は楽器メーカーである Holzblasinstrumentenbau GmbH・Metallblasinstrumentenbau Jürgen Voigt・Warwick GmbH や Autohäuser Adler und Wagner・Möbeltischlerei Schüller・Firma Hartmut Lull・Vogtland-Grabmal・Firma Grosskopf, それにセルフサービスの自動車洗浄装置などに売却されている。これらの会社のいくつかは、すでに積極的に工場建設にとりかかっており、さらにその先は、敷地中の道路の建設しだいである。目下道路下の下水管を北方の Breitenfeld へ通す工事が進行中である。未だ裸地状態であるが、やがて栽植されるはずである。工業用地が満杯になった暁には、北の方へ通過道路を含めて拡張されるはずであり、そのためになお 3 ha の土地が予定されている。

楽器見本市で最大のものは、毎春 Frankfurt am Main で行われる Messe で、世界最大のものといわれている。そこで名声を博することが、世界市場開拓にも通ずるはずであるが、知名度が低いため展望は開けていない。ヴィースバーデンにあるドイツ楽器製作者連邦組合の楽器種類別加盟会社の所在地をみると、ドイツ内の他の産地が分かる（表 5）。

ドイツ全体の楽器工業の分布から分ることは、ニュルンベルク＝エアランゲン周辺に巨大な産地があり、もう一つの集団はフランクフルト（Main）周辺とボーデン湖北側である。山間の森林の多い小さな町（Trossingen・Bad Berleburg など）にも楽器工業が入り込んでいるのは、玩具工業と似た工業の性格を示している。オーストリア国境に近い Mittenwald のバイオリン製作などは、観光地でもあって知名度が高く、またハンブルク・ミュンヘン・フランクフルト・ケルンなどの大都市に近いところは、楽器使用人口の規模が大きいだけに、修理などの点では若干有利な立地である。

第 5 表 連邦ドイツ楽器製作者組合加盟会社の所在地（1994年）

電気教会オルガン	Ditzingen-Heimerdingen				
ハーモニカ	Trossingen	Klingenthal			
木管楽器	Burgau / Schwaben	Wiesbaden-Biebrich	Trossingen	Markneukirchen	Waiblingen
	Gelnhausen	Tübingen	Celle	Fulda	Nauheim
	Heide / Holstein	Michelstadt	Nauheim	Markneukirchen	
金管楽器	Mainz	Nauheim	Geretsried	Karlstadt	Vlotho-Exter
	Nauheim	Burgau / Schwaben	Nauheim	Gelnhausen	Wilstedt
	Markt-Erlbach	Burgwald Industriehof	Diespeck	Geretsried	Geretsried
	Waldkraiburg	Lindau / Bodensee	Wangen-Primisweiler	Leipzig	Bremen
音楽ソフトウェア	Hamburg				
音楽玩具	Markneukirchen				
電子工学オーケストラ	Feucht				
打楽器・太鼓の皮	Trossingen	Diespeck	Bad Berleburg	Gräfelfing b. München	
弦＝撥弦楽器	Penzberg	Bubenreuth	Bubenreuth	Weisendorf-Kairlindach	Mittenwald
	Markneukirchen	Bubenreuth	Eggolsheim / Neuses		
付属品					
( 木材・機械部品・	Langensendelbach	Bubenreuth	Nauheim	Weisendorf-Kairlindach	Hamburg
熱帯木	Erlangen-Tennenlohe	Groß-Gerau			
( 楽器の舌・弓・管	Bubenreuth	Diespeck	Nauheim	Wetzlar	Michelstadt
楽器パイプ	Lindau / Bodensee	Neustadt a.d. Aisch			
( メトロノーム・指	Langensendelbach	Bubenreuth	Dipperz	Freudenberg	Bubenreuth
揮棒・譜面台・音	Wertheim / Main	Geretsried	Markneukirchen	Offenbach / Main	Bubenreuth
叉・調子笛・ケー	Wolfhagen	Nauheim	Isny		
ス					

## 5. 楽器工業関連施設

楽器の町であるがゆえに、Markneukirchen にはいくつかのそれに関連した施設がある。

楽器製作専門学校 (Fachschule für Musikinstrumentenbau)

町を東西に通る Adorfer Straße に面して北側の丘陵斜面にある、巨大な建物がそれで、富裕な楽器商人から寄贈されたもの。正式名称は『Angewandte Kunst Schneeberg』, Fachbereich der Hochschule für Technik und Wirtschaft Zwickau (FH) の Außenstelle Markneukirchen, Studiengang Musikinstrumentenbau である。町の40km北東, Zwickau 南東15km Schneeberg (ザクセン州ケムニッツ県の町、人口2.1万、銀の産出で栄え、レース編みも盛んで、鉱山民俗の残っている町) に本部のある工業専門大学の分校で、木彫・モードデザイン・楽器製作・繊維デザイン・繊維工芸の5つの専攻分野をもっている。1988年の創立で、修業年限は4年で、1994年現在 Markneukirchen の楽器製作分校には学生数18名(男14, 女4)、近年は旧東ドイツの他の州からも学生が来始めている。学生宿舎はなく、学生は個人で居所を探している。カリキュラムは弓・バイオリン・撥弦楽器製作などで、科学的にして、歴史的・伝統的楽器製作の理論と実習を行っている。学習目標は現実的にして理論的な知識の習得であり、卒業した暁には最高品質の芸術的に製作された楽器を、科学的方法と知識を応用して設計し、また製作できるマイスターになる。その際に特に力点が置かれている事は、工芸的技術が優れていることと並んで一芸術的にして美的要素と創造性を手工業的伝統を密接に結び付けること一音響学的にして、音楽学的教育を深めることである。もう一つの重点は、歴史上貴重な楽器を、歴史的・文化的事情に注意し、かつ芸術史的観点から修復する術を学ぶことである。

教官は分校長で音楽と楽器学の Prof. Eberhard Meinel の下、バイオリン製作の E. Richter, 弓製作の G. Paulus, 撥弦楽器製作の S. Eichhorn の4名に、必要に応じて8人の手工業マイスターと10人の上級マイスター、その他の非常勤講師が来講する。授業科目(弓・バイオリン・撥弦楽器製作)には、専門教育、木彫／(バイオリンなどの)さお作り、楽器学、楽器製作史、芸術史／美学、社会科学、音楽史、音響学、材料学、専門スケッチ／技術スケッチ、楽器演奏、博物学などがある。学習修了時には、次の学位が授与される。

Diplommusikinstrumentenbauer (FH) – Bogenbau

〃 – Geigenbau

〃 – Zupfinstrumentenbau

入学試験は年1回、夏学期にあり、学習開始は冬学期から。適性検査には(少なくとも20の自分の作品)、スケッチ、学力、設計などがある。

楽器博物館 Markneukirchen

市街南部に1883年2月24日に設立され、当初は「Gewerbemuseum [産業博物館]」と称していた。1872年以来、産業組合が設立され、関心のある市民が集い、講演や同種の催し物を行っていた。教師でありオルガニストの Paul Apian-Bennewitz の呼びかけによって博物館が設立された。当初博物館は様々な課題をもっており、楽器製作の代表部として、ローカルな若い楽器製作者の教育プログラムの展示場として利用されていた。また町の名所となるべく、また一般国民教育にも資することになると

考えられていた。1896年以来、展示物は町有となり、1887年には中国・日本・トルコ・アフリカ・南米などからの楽器をたくさん購入し、約2,700点の楽器を蔵している。それまでは分散して保護されていた展示物を現在の場所に統合した。現在の博物館の建物は1784年に建てられたバロック後期のもので、裕富な工業家で商人である市民の家で、今日「Paulus-Schlößchen [パウルス小城]」と呼ばれ、記念物保護に指定されている。

今日、国と商工会議所から助成を得て、地元の最先端の楽器を展示するようにしている。1959年に来訪者が5万人／年であったが、1973年には10万人に増え、うち2割は子供と若者であり、教育的意味は大きい。現在は国際楽器博物館委員会（CIMCIM）に登録され、全世界から来訪者が絶えない。事実1994年8月上旬、調査中にアメリカからの若者がバスを仕立てて来訪していた。

#### 楽器製作研究所

郡都 Klingenthal に西隣する Zwota 村の国道283に沿っており、1954年に設立されたもので、正式には Institut für Musikinstrumentenbau。DDR 時代には50人のスタッフいたが、今日は10人しかおらず、つぶされなかった方が不思議なくらいで、現在は登録協会 Vogtländischer Förderverein für Musikinstrumentenbau und Innovation e.V. [フォークトランド楽器製作＝革新推進協会] によって管理されている。活動は音響および振動周波分野での応用研究、工業的および手工業的楽器製作のための測定、試験方法の開発と製作開発、加工法＝試験方法および有機物質の応用研究、楽器＝文芸品製作および品質確保の方法の応用研究、騒音対策、楽器製作と音響のための6,000冊の図書と12,000のコンピューター図書データのサービスなどである。その他講習会、公演会などによる楽器の啓蒙活動も行っている。

#### 「Reinhold Glier」音楽学校

町役場北西の丘の上にあり、ギムチージュムと一緒にっており、Grundstufe 2年, Mittelstufe 3年, Oberstufe 4年の計9年間音楽を勉強する中等学校である。1834年に創立されており、今日でもオーケストラの構成員を養成している。卒業後はヴァイマール・ドレスデン・ライプチヒなどの音楽大学へ進学できる。

#### オーケストラと音楽堂

1891年 Markneukirchen で生れ、地元の音楽活動に貢献した Friedrich Glier などの尽力によって、町には5つの大きなオーケストラや音楽グループがある。同年地元のムジークパビリオンや近くの Bad Elster 保養地などで演奏活動をしている。オーケストラはライプチヒ・ハンプルク・ブレーメン・ハイデルベルクなど全国へ出張演奏も行い、「Musikwinkel Vogtland」の宣伝にも役立っている。

有力な音楽コンクールも行われ、ザクセン＝フォークトランドの音楽活動を活気づけるものになっている。毎年5月、Internationalen Instrumentalwettbewerb Markneukirchen が開催され、1994年は5月4日から14日までで、部門はクラリネットとホルンであった。Sinfonieorchester Markneukirchen はライプチヒの Gewandhaus で客員演奏したことがあり、また Gewandhaus の首席指揮者の Kurt Masur が客員指揮したこともある。Markneukirchen 吹奏楽団は国際大会で何回も入賞しており、町を越えて名声を博している。

## 6. 楽器工業の改善策

連邦経済省が、新しい州を郡レベルで地域振興策を制定させた時のコンサルタント会社 SCG は、Markneukirchen について、1992年の報告書「音楽の里 Klingenthal/ Markneukirchen における楽器製作の保全と発展に関する地域政策」の中で、次の三つの措置の提案を行っている。いずれもコンサルタント会社の案に見られるような、総花的、ないものねだりの、夢物語ふうの感じがしないではない。

### 1. 指揮棒センターの建設

土地のマーケットを作り、音楽の里のシンボルとし、観察のできる楽器工場を作り、楽器見本市を開催し、音楽専門家の観光客としての来訪を誘発する。

効果としては、音楽の里のイメージアップができ、専門家の来訪を、周年的に期待でき、歩道・自転車道の整備もでき、地域の人々の生活の安定に繋がる。

### 2. ミクロ=インフラストラクチャー複合体の整備

提案としては、9 km 北方にある Schöneck 町にある DDR 時代からある大きな Hotel “Hohe Routh” を中心に整備する。500～600席のコンサートホール、会議場、ベッド数800の大ホテル、飲食店、サウナ、プール、体育館、テニスコート、ゴルフ場、マウンテンバイク基地、スキー場、乗馬などの整備。期待される効果：国際ランクのオーケストラや指揮者たちが、保養を兼ねて練習や公演に来る。周年会議を催し、全国に放送する。

### 3. 手工業会館の建設

観光客用の作業場、楽器製作作業手順の展示、ギルド館の建設、製品の展示と販売、金利の低い信用供与。期待される効果：観光客の来訪、ペンションや旅籠の利用度の向上、恒常的販売展示が行われるようになる。

## IV お わ り

Vogtland の伝統手工業である楽器製作は、南隣するチェコがハプスブルク家のキリスト教強化によるプロテスタントのザクセンへの移住とともに、1650年頃始まったらしい。チェコの Kraslice・Luby などとほとんど一体となって楽器工業は Vogtland で発達してきた。第一次大戦前にピークに達し、Markneukirchen を中心としてギルドによって弦楽器・撥弦楽器が手工業的に作成され、初めは行商により、次いで問屋筋によって販売されてきた。アメリカの代理領事が Markneukirchen に置かれるほどの勢いであった。

社会主義体制に入って大きな企業は国営・半国営化されたが、個人経営の手工業者はそのままであり、コメコン体制による分業として、楽器工業は安定的に好況を享受してきた。1990年の東西ドイツの統一は、旧コメコン市場を失ったばかりでなく、かつての資本主義市場に対しても労賃の上昇によって国際競争力を失い、知名度の低さとともに壊滅状態に陥った。

しかし、他に産業があるわけなし、伝統的な技術、社会的組織（楽器博物館、楽器製作専門学校、音楽校、シンフォニー）などを駆使して、フランクフルト（Main）楽器見本市などへ出品して、楽器工業の再興を図っている。ドイツ国内他産地との競争のほかに、日本・アメリカなど外国との競争

にも堪えるだけの競争力をつけなければならず、ゾンネベルクの玩具工業と並んで、大きな困難に直面している。音楽の社会における基盤が大きいこと、全世界的に文化向上に向かって努力していることなどが、客観状況としては玩具よりは恵まれている点と思われる。

本研究は1994年度国際学術研究「ドイツにおける旧国境地域の地域構造の変化」(代表小林浩二岐阜大学教授)の調査結果の一部である。

### 参 考 文 献

- 小林 昇 (1966): 『フリードリッヒ・リスト論考』 未来社, 419p.
- 松田智雄 (1967): 『ドイツ資本主義の基礎研究 — ヴェルテンベルク王国の産業発展 —』 岩波書店, 473p.
- 諸田 実 (1967): 『ドイツ初期資本主義研究』 有斐閣, 361p.
- 小林浩二 (1993): 『統合ドイツの光と影』 二宮書店, 210p.
- 佐々木博 (1993): ドイツ統一にともなう旧東ドイツの行政区画および大学・研究機関の再編成. 人文地理学研究, XVII, 107~130.
- 佐々木博 (1994): 統合ベルリンの地域構造と工業政策. 人文地理学研究, XVIII, 163~190.
- 佐々木博 (1994): テューリンゲン山地ゾンネベルク玩具工業の変貌. 筑波大学地域研究, 12, 1~26.
- Berthold, T. & W. Fürstenau (1876): 『Die Fabrikation Musikalischer Instrumente und einzelner Bestandtheile derselben im Königl. Sächsischen Vogtlande』, Leipzig, Druck und Verlag von Breitkopf und Härtel.
- Bein, L. (1884): 『Die Industrie des Sächsischer Voigtlandes』, Leipzig, Verlag von Duncker & Humblot.
- Wild, E. (1925): 『Geschichte von Markneunkirchen』, Plauen, Vogtländischer Heimatverlag Franz Neupert GmbH.
- Wild, E. (1936): 『Geschichte und Volksleben des Vogtlandes in Quellen aus 700 Jahren』, Plauen i.V. Vogtlandischer Heimatverlag Franz Neupert GmbH.
- Kauert, K. (1969): Entstehung, Standorte und Struktur der Vogtländischen Musikinstrumentenindustrie unter besonderer Berücksichtigung der Veränderungen seit der Mitte des 19. Jahrhunderts, Dissertation der Historisch-Philologischen Fakultät P.H. Potsdam.
- Akademie der Wissenschaften der DDR Geographisches Institut Arbeitsgruppe Heimatforschung (1976): 『DAS OBERE VOGTLAND』, Akademie-Verlag · Berlin.
- Kommission zur Erforschung der Geschichte der Örtlichen Arbeiterbewegung bei der Kreisleitung Klingenthal der SED (1988): 『Klingenthaler Harmonikawerke Zur Geschichte』, Klingenthal.
- Maier, J. (1991): Entwurf eines Stadtentwicklungskonzeptes für Markneunkirchen / Sachsen, Arbeitsmaterialien zur Raumordnung und Raumplanung, Heft 104.

## Changes of Musical Instruments Industry in Vogtland, Sachsen

Hiroshi SASAKI

Vogtland is situated between Thüringerwald · Frankenwald and Erzgebirge (Fig.1), and borders Czech and Bayern. The musical instruments industry was introduced by Czech people about 1650 with the recatholic movement in Bohemia. The industry reached peak year just before the First World War and Charge d'Affaires of American consulate was settled in Markneukirchen to import the musical instruments. During the DDR age most musical instruments were exported to socialistic countries (Table 1).

The center of the industry is Markneukirchen with the population of 7,612 in 1993 (Table 2). There are 131 makers of musical instruments with 952 workers (Table 3). Almost all makers are small private handicrafts with one or two workers. The name of Vogtland is not known among western capitalist world and the former socialistic markets are destroyed by the lack of foreign-exchange holdings in those countries. Vogtland makers are now suffering severly from the economic crisis, and are looking forward to find the new ways of living. Vogtland music instrumentes makers must be confront with the keen commpetition with other inland makers in whole Germany (Table 5), but also with those in Japan and America.





写真1 Markneukirchen 全景を南より  
(1994.7)

市街は谷間に、左側の塔のある教会付近が都心。右側上方丘陵上のはげている部分が工業団地。標高600m前後の丘陵上には森が広く残っている。



写真2 Markneukirchen 北東部の新しい工業団地(1994.7)

1994年春から最大の従業員数200人を要する金管楽器メーカーのVogtländische Musikinstrumentenfabrik GmbH(有限会社)が操業開始している。



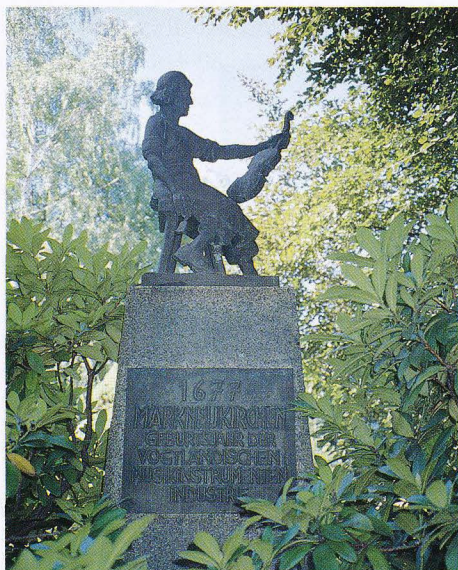
写真3 壁絵の楽器公告(1994.7)

MarkneukirchenのBienengarten通りを東より見たもので、「木管—金管楽器」の宣伝。





**写真 4** Musikinstrumentenmuseum  
Markneukirchen (1994.7)  
16Cから現代までの楽器および  
全世界からの楽器を展示。富裕  
な楽器商人の家の面影を示す。



**写真 5** バイオリン製作者ギルド設立記  
念碑(1994.7)  
楽器博物館入口の庭にあり、  
1677年3月6日、Neukirchen  
に組合〔ギルド〕が設立され、  
その後の発展の礎となった。

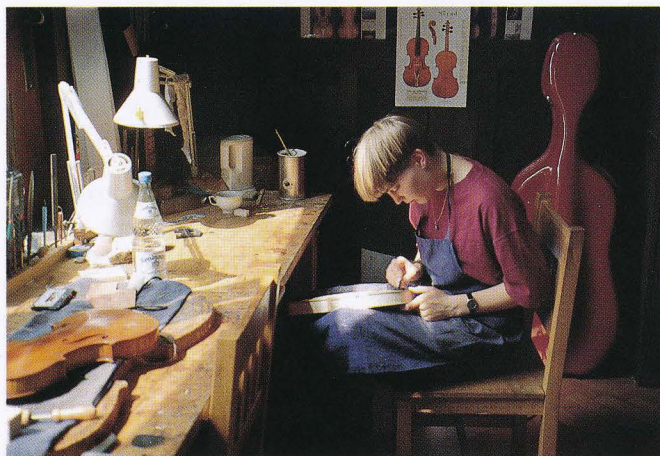


**写真 6** 大手企業 MUSIMA (1994.7)  
従業員132人を要する第2の大  
手で、撥弦楽器と弦楽器を作る  
Mu sikinstrmenten-Manufaktur  
GmbH. 市街北東の台地上にあ  
り、日本・アメリカ・イギリス  
の国旗が見える。





**写真7** 楽器製作専門学校(1993.7)  
Markneukirchen の Adorferstra-  
ße 北側にあり、楽器製作の学  
士を養成する。建物は昔の富裕  
な楽器商人の家を寄贈されたも  
の。



**写真8** 夏休みでもバイオリン作製中の  
学生(1994.7)  
楽器製作専門学校の広い作成室  
で、マイスターに成るべく、ま  
た展覧会出品のため作成にいそ  
しんでいる。



**写真9** MIGMA (1994.7)  
MUSIMA とは対称的に、個人  
手工業者の材料購入と販売のた  
めの組合。





写真10 楽器修理職人(1994.7)

Klingenthal通りの腕の確かな職人のところへは有名な演奏家が、楽器の注文や修理にやってくる。



写真11 郡都 Klingenthal 中央広場の壁絵(1993.7)

統一以来進出した信用金庫 Sparkasse (左側)と並んで、社会主義時代の人民所有企業(VEB)の公告壁絵が残っている。オーケストラ用電子楽器、アコーディオン、アーマニカ、音楽玩具。



写真12 VEB Klingenthaler Harmonikawerk(1994.7)

駅に南隣(Markneukirchen Str. 国道283号)に面した巨大なアコーディオン工場は、かつては3,100人の従業員を要した人民所有企業(YEB)であったが、現在は従業員104人のHarmona Akkordeon GmbH(有限会社)と社名も変っている。